



2017.10.18
第164号

発行
福島県市町村
教育委員会
連絡協議会
北耶麻沼
両支支

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

節目の大切さ



会津教育事務所
業務次長兼学校教育課長
佐藤 忠 一

平成十四年三月発行の「あいづね」一一七号に新任教頭として「私の抱負」に「菊づくり」の題名で掲載させていただきました。当時、免外で3年技術を担当し、知識も技術もない中で指導で、花を咲かせることができるのかと不安ばかりが頭をよぎりました。多くの方にアドバイスをいただきながら進めたものの生育がよくなく、毎朝校舎巡視の際に菊の生育状況の確認が日課となっていました。しかし、何とか十月に、すべての生徒の菊が大輪の花を咲かせることができたのです。文章の最

後の一文は「生徒のためにひたむきに取り組む姿勢の大切さを菊づくりを通して実感することができた」と結んでいました。三十年以上の教員生活を振り返ると様々な実践を通して生徒たちと関わってきましたが、中身がぎっしり詰まった大木のようにどんな暴風雨に負けることなく、自分をしっかり持つて教職人生を歩んで来たとは言えません。しかし、新任教頭の時、新採用や新任校長の時、勤務地が変わった時、会津教育事務所

に初めて勤務した時、節目節目で慣れない中でも一生涯懸命に取り組んできたと思っっています。その際、助けて頂いた方々の存在を忘れることはできません。上司や同僚、地域の方々の協力を得て作った節目があったことで、多少揺れ動くことなく過ごせていると感じています。未来を担う子どもたちにとって将来は明るいと云い難く、激動の時代をたくましく生き抜く力を身につけさせなければなりません。私たちは子どもの節目に関われる存在として喜びを持って指導したいものです。教職員一人一人が子どもに対する思いや願いを行動で示していくことで、子ども達は多くの節目を持つことができます。子どもとの出会いを大切にしながら、ひたむきに取り組む姿勢を大事にしたいものです。子ども一人一人が大きく花開くよう願いながら・・・

一学期の反省を生かして

所長（管理）訪問や各種会議・研修会等を通じ、各学校が自校の課題を的確に捉え、学力向上や事故・不祥事防止などに具体的に取り組んでいる様子が窺えられました。訪問した多くの学校では、校舎内外の安全に配慮され、整理整頓された環境の中、集中して学習に取り組む児童生徒の姿や、授業の改善や工夫に取り組む先生方の姿に触れることができました。

少人数教育や各種加配については、現在、県民からその成果が大きく求められています。各種加配のねらいや目的に応じ、そして、学校や児童生徒の実態を踏まえて活用されているか、検証方法は適切かをしっかりと見直すことが必要です。特別支援学級や通級指導教室については、そのねらいや目的に沿った教育課程の編成と実施、児童生徒のニーズに合う指導がなされていないなければなりません。単なる教科の取り出し指導であってはならないのです。

勤務の適正化については、教職員の勤務時間が把握され、各学校で工夫されている様子が見られます。教職員の多忙化解消や子どもと向き合う時間の確保、教職員の心身の健康保持は、全てが強く相互に関係しているため、今後とも、各校の実態に応じたさまざまな取組が期待されます。

不祥事防止については、各学校で、校内服務倫理委員会を工夫し、風通しのよい職場づくりのためにコミュニケーションを豊かにしようとしていました。しかし、一学期、交通事故（追突）が相次いで発生し、昨年度一年間の総数を、すでに上回っています。各学校においては、不祥事防止のための行動計画の検証や個別面談など、一人一人の教職員の危機管理意識を高めるとともに、現状を再点検し、今後も教職員が互いに認め合い励まし合える職場環境の整備に尽力していただきたくよろしくお願います。

総務社会教育課だより

【これまでに実施した主な事業】

- 1 家庭教育推進協議会会津地区ブロック会議
 - (1)日 時：平成29年6月9日（金）
 - (2)会 場：ルネッサンス中の島
 - (3)内 容：家庭教育の今年度の方向性について話し合いました。
- 2 学校・家庭・地域連携サポート事業
放課後子ども教室研修会
 - (1)日 時：平成29年7月12日（水）
 - (2)会 場：湯川村公民館
 - (3)内 容：講演、実践発表、グループ協議
 - (4)参加者：放課後子ども教室・児童クラブ関係者、地域ボランティア、行政担当者等 90名
 - ◇講演 1 「豊かなこころを育てるために
心をつなぐ紙芝居」
立正大学非常勤講師 堺 正一氏
 - ◇実践発表 「会津美里町放課後子ども教室の取組」
わくわく宮川コーディネーター 谷澤 幸代氏
 - ◇講演 2 「個性的な子ども達との関わり方」
福島県立猪苗代特別支援学校教頭 江見 浩二氏
 - ◇グループ協議
それぞれの子ども教室における成果と課題を共有しながら、今後の事業推進に向け話し合いました。



- 3 読書活動支援者育成事業会津地区研修会
 - 【1回目】平成29年8月24日（木）
 - (1)会 場：会津大学
 - (2)参加者：読み聞かせ・読書ボランティア、司書等 67名

～社会教育関係事業の紹介～

- ◇実践発表 「朗読・昔語り・パネルシアターの実演」
ばんげ読み聞かせの会
- ◇実践発表 「魅力ある図書館づくり」
只見町立只見中学校学校司書 赤井 沙織氏
- ◇鑑賞 「歯いしゃのチュー先生」「よだかの星」
朗読劇サークル アグリーダックス
- ◇講義・演習 「子どもと本をつなぐ
読み聞かせと手遊び・わらべうた」
桜の聖母短期大学非常勤講師 邊見 恵美子氏



- 【2回目】平成29年9月19日（火）
- (1)会 場：会津大学
- (2)参加者：読み聞かせ・読書ボランティア、司書等 63名
- ◇実践発表 郡山市立緑ヶ丘第一小学校学校司書 岡田 友美氏
- ◇実践発表 「まつお文庫」主宰 松尾 福子氏
- ◇講演・演習 「心ふれあう読み聞かせの技術」
田村市立図書館長 宮崎 亜古氏

【これから実施する主な事業】

- 4 学校支援実践研修会
 - (1)日 時：平成29年10月19日（木）
 - (2)会 場：会津若松市立湊小学校
 - (3)内 容：支援活動見学、実践発表、情報交換
 - (4)対象者：学校支援・放課後支援に関心のある方、コーディネーター、ボランティア、社会教育行政関係者等

「『確かな学力』の向上を図る授業づくり」のために

4月より県内すべての小・中学校において、ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善、指導力向上に向けた取組が行われています。

「授業スタンダード」に込められた思いや期待をしっかりととらえ、会津の子どもたちの「確かな学力」の向上を図る授業づくりをお願いします。



【ふくしまの「授業スタンダード」】

「授業スタンダード」は、日々の授業づくりや授業の振り返り、授業研究会などの校内研修において、すべての先生方に幅広く活用していただきたいと思えます。

なお、導入、展開、終末の学習の流れは一例です。授業のねらいや学習内容などに応じて参照してください。

「授業スタンダード」を活用した授業の充実

(例)「まとめ・振り返り」の改善

<授業における課題>

- 授業者による一方的なまとめ
- 自分の学びの変容を意識できない学習感想
- 適用・習熟の時間が不十分



<目指したい「まとめ・振り返り」>

- 「何を学習したか」、「どのように学習してきたか」をまとめ、振り返らせる。
- 1単位時間の進行管理を確実に行き、ねらいに合った適用問題に取り組ませる。
- ※ 「振り返り」が学びを深め、次の「学びに向かう力」を育成します。

ふくしまの「授業スタンダード」を活用し、教員相互の学び合いをもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが大切です。

「美術館のある町」

柳津町教育委員会教育長 目黒 健一郎



斎藤清美術館は今年、開館20年、斎藤清没後20年の記念の特別な年です。10月開催の“ムンク×斎藤清”展をメインに多くのイベント等を計画中です。これまでも収蔵した作品を一定のテーマに沿って選択し展示してきましたが、個人名をいただいた美術館として画伯の生涯と作品についての研究を深め、展示に反映させることや、版画をはじめとする芸術への関心を高め、親しみを持っていただくことも大きな役割と位置付けています。



特に、町内の小中学生に「美術館のある町」のよさと館とのつながりを感じてもらいたいと考えています。これまでも両沼地区中学校美術作品展を館内で開催

しましたが、さらに、今年は夏休み体験教室を計画しました。題材は「黒板アート」。7月に武蔵野美術大学の協力を得てサプライズ企画『黒板ジャック』を柳津小

学校の全学級7枚の黒板で実施しました。非日常の「黒板アート」とともに、中身の濃い時間を過ごせました。その経験を生かして自分たちで書いてみようという新企画です。

また、先ごろ、美術館への作品寄贈の申し出があったことを町内二校の中学生全員に説明し、アメリカに住む寄贈者に英文で感謝の手紙を書く機会を設定しました。以前、アメリカで斎藤清の通訳をつとめた寄贈者に斎藤清美術館のある町からの思いをどう伝えるか、試行錯誤の結果の第一便はアメリカに送られ、秋には第二便が送られます。

これらに加え、同伴の保護者も無料で入館できる小中学生用の「こどもパスポート」の配布など、教育長が美術館長を兼務するという「役得」をいかして、『美術館がある町で学べてよかった』と言える環境作りを模索し、ふるさと柳津を誇りに思う子どもを育てていきたいと願っています。



我がまちからの情報発信

古墳時代の王者の棺発掘

～灰塚山古墳の発掘調査成果～

灰塚山古墳は会津盆地の北西部、喜多方市慶徳町新宮地区西側の小高い丘陵上に築かれています。全長61.2mの前方後円墳で、今から約1,600年前の古墳時代中ごろ（5世紀）に会津北部地域を治めていた王者（豪族）のお墓です。東北地方の古墳時代の様子を解明するため、平成23年から東北学院大学辻秀人教授により発掘調査が行われ、平成28年には王者を埋葬した二つの棺（木棺と石棺）が発見されました。

木棺では、棺そのものは腐って無くなっていましたが、権威を象徴する鉄製の大刀や矢じり（弓矢の先端部）、青銅の鏡、腕輪用のガラス玉など、貴重な物品が次々出土し、関係者も驚きを隠せませんでした。さらに、埋葬時に使用した儀礼用の櫛（髻櫛）が重なって見つかりましたが、これは死者を葬る際の儀式の様子を具体的に知ることができるものとして、全国的にも重要な発見となりました。

一方、石棺は箱型に組んだ石の棺の上に板石を重ねて蓋をし、さらにその上を粘土で密封するという厳重な造りになっていました。板石を少しずつ取りあげていく

喜多方市教育委員会

と、蓋石とその上に重ねた板石との間から鉄製の大刀・剣・矢じりの束など、古墳時代の武器がたくさん見つかりました。このような出土例は少なくとも東北地方では初めてであり、死者を石室に葬ったあとに行われる儀式の様子を知る上で大変貴重な発見です。

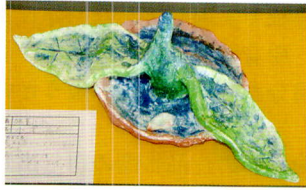
石室の内部は今後調査される予定となっていますが、どのような出土品が発見されるのか、これからの調査成果が大いに期待されます。また、灰塚山古墳近くにある国指定史跡古屋敷遺跡は、古墳に埋葬された王者が生前住んでいた館の可能性が考えられており、古墳と遺跡の関係にも注目が集まっています。



作品と指導

工作

『水の流れるように』



喜多方市立第二小学校
6年 小澤 洸太

軽い粘土を使って、水が流れているようなイメージを立体に表しました。光沢のある砂やラメを液体のりで定着させ、後から絵の具で着色しています。広がった葉のみずみずしさが感じられる作品になりました。

指導者 巻 理周

絵画

『夜空のシンメトリ』



湯川中学校
1年 小林 明日香

形や色の組み合わせを学びました。折り紙を使い、自分のイメージした形をいろいろ折ったり切ったりしながら、創意工夫し、楽しんで制作していました。美しい画面構成を表現することができました。

指導者 岩下 千恵

習字

『深緑』

猪苗代町立東中学校
1年 安部 成美



行書の特徴である点画の連続に注意しました。また二字のバランスを考え、作品作りに努めました。

指導者 鹿山 裕二

私の抱負

不易流行



北塩原村立
さくらがわ小学校
校長 齋藤 秀樹

「さくら小の子どもたちは、礼儀正しいですね。」
修学旅行や校外学習でお世話になった方々にうれしい一言を何度もいただきました。
「元氣なあいさつ、友達と仲よく、話をしっかり聞く」この三つをめあてとして全職員で指導に当たっています。
登下校時や来客への元氣なあいさつ、上学年と下学年が一緒に仲よく遊ぶ姿、日々の授業での真剣に話を聞く態度など、あたり前のことをあたり前にできること（不易）の大切さを改めて感じています。
保護者や地域の方の協力に感謝を忘れず、子どもを第一に考え、新たな視点からも改善に努める（流行）教職員とともに、日々の教育活動の充実をめざし、真摯に努めていきたいと思っています。

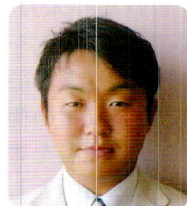
「笑顔」のために



会津自然の家
社会教育主事 佐藤 亮

教員になり、子どもたちを引率して会津自然の家に来る度に、所員の方の親切かつユニフォームをもって対応してくださる姿を見て、三十六年前に小学生として参加した「宿泊訓練」の楽しかった思い出が甦り、そして同時に、ここで働いてみたいという気持ちを持つていました。
縁あって四月に着任。ロτζジから見た景色は小学生の時に見たものと同じで、とても懐かしく感じました。
現在、常に心がけていることは、どの利用団体にも「笑顔」で帰っていただくことです。「また来るね。」の言葉は何にも代えがたく、それが私自身の活力にもなっています。これからも利用団体のことを第一に考え、精一杯支援していきたいと思っています。

新採用教諭として



会津坂下町立
坂下中学校
教諭 生方 彰

坂下中学校に赴任して早いもので六ヶ月が過ぎました。素直で明るい生徒達や、温かく見守ってくださる保護者の方々、悩みの相談に乗ってくださる諸先輩方、たくさんの方々に支えられ、毎日充実した日々を送っています。
会津坂下町では「一つの学園構想」の具現化に向け、幼小中の職員が協力し合い、一貫性ある教育の実現を目指しています。私が勤める坂下中学校は、その最終段階を担っていると言えます。与えられた職務を深く理解し、一人ひとりの子ども達の望ましい自己実現に向け、日々の実践を大切にしていきます。
これからも感謝の心を忘れずに、生徒と共にある教師を目指して、日々学び続けていきたいと思っています。